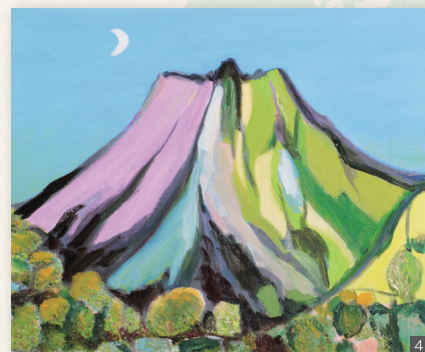


| 入 | 場 | 無 | 料 |

「知らない」を 観に行こう。

vol.20

国立療養所 菊池恵楓園 絵画クラブ 金陽会 作品展



会期

2025年 5月20日 火 ~ 6月1日 日

9:00~17:30 (最終日は13:00まで)

※5月25日(日)は休館日 ※5月24日(土)・5月31日(土)は13:00まで

会場

別府大学附属博物館 別館
佐藤義詮記念館 2F ギャラリーホール
大分県別府市北石垣82 (別府大学18号館)

主催:別府大学同窓会、別府大学附属博物館 共催:別府大学看護学部

協力:一般社団法人金陽会、大分県、国立療養所 菊池恵楓園、国立療養所 菊池恵楓園入所者自治会 絵画クラブ 金陽会

〔問合せ先〕 別府大学歴史文化総合研究センター(別府大学附属博物館本館) Tel.0977-27-6116

受付時間/月~金曜日 9:00~16:30



— 講演 —

「金陽会の作品を通して伝えたいこと」

日時 | 2025年5月20日[火]
14:40~16:10

会場 | メディア教育・研究センター4F
メディアホール〈100名程度〉

講師 | 藏座 江美さん

企画者の藏座江美さん(別府大学卒業生)が
金陽会の作品の魅力について語ります。



熊本県にある国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会は、1953(昭和28)年に発足した絵画クラブです。特定の師を持たず、独学で描かれた作品の数々は950点以上にもおよびます。

菊池恵楓園は全国に13ヶ所ある国立療養所でも最大規模であり、今なお115名の入所者がいらっしゃることで、療養所の中で絵を描かれていた方々がいらっしゃったことなど、実はあまり知られていません。

1996(平成8)年の「らい予防法の廃止に関する法律」を始まりとして、2001(平成10)年の「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」、2019(令和元)年の「ハンセン病家族賠償請求訴訟」等の一連の裁判の終結により、ハンセン病問題はあたかも終わったかのような様相を呈していますが、社会の偏見、差別は今なお続いています。

過去の話ではなく今なお続く課題として、看護学部生だけでなく、他学部の学生、教職員、その他さまざまな方々にも、絵画との対話を通じて入所者の方々、ハンセン病問題について、こころを寄せていただく機会になれば幸いです。

主催者



〔藏座江美プロフィール〕 学芸員、司書、上級デジタルアーキビスト。2000年熊本市現代美術館の立ち上げに従事、2002年の開館記念展「ATTITUDE2002」で国立療養所菊池恵楓園の抱き人形「太郎くん」に出会う。15年の美術館勤務を経て、2016年より菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の作品調査を行いながら、全国各地で展覧会を開催している。主な展覧会に「いのちのあかし展」(2016年、京都市)、「ふるさと、奄美に帰る」(2018年、名瀬市)、「知らない」を観に行こう。(2018年、あま市)、「ふるさと、天草に帰る」(2020年、天草市ほか)、「知らない」を観に行こう。Vol.18」(2025年、直方市)など。

- 1 《遠足》 木下 今朝義 1996年 油彩、キャンバス 45.5×53.0cm
- 2 《春日和》 矢野 悟 1995年 油彩、キャンバス 45.5×53.0cm
- 3 《園内風景》 入江 章子 1998年 油彩、キャンバス 60.6×72.7cm
- 4 《奄美の豚》 大山 清長 1996年 油彩、キャンバス 45.5×53.0cm
- 5 《根子岳》 森 繁美 2002年 油彩、キャンバス 37.9×45.5cm
- 6 《ゲートボール》 奥井 喜美直 2005年 油彩、キャンバス 45.5×53.0cm
- 7 《母子》 矢野 悟 1995年 油彩、キャンバス 130.3×162.1cm
- 8 《菊池渓谷》 吉山 安彦 2025年 油彩、キャンバス 112.3×145.5cm

* 作品はすべて、国立療養所菊池恵楓園歴史資料館所蔵

別府大学附属博物館 別館
佐藤義詮記念館 2F ギャラリーホール

〒874-8501 大分県別府市北石垣82(別府大学18号館)
TEL:0977-27-6116

※会場の駐車場・駐輪場には限りがございます。
お越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。
車でお越しの方は、大学施設外の近隣パーキングをご利用ください。

学内施設配置図

【展示会場】
佐藤義詮記念館 2F

【講演会場】
メディア教育・
研究センター 4F

